

経営比較分析表（令和6年度決算）

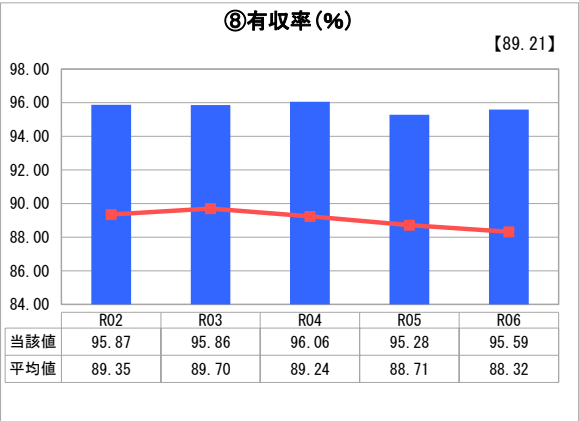
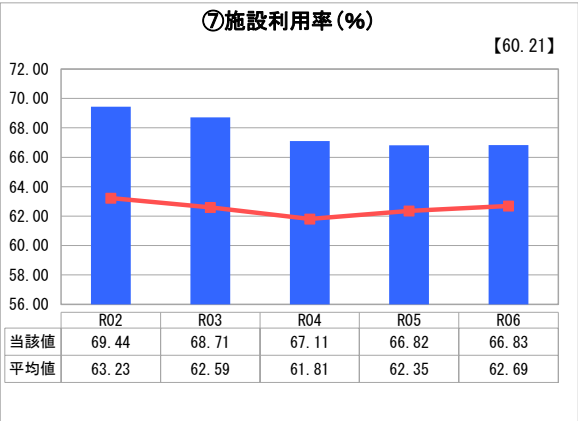
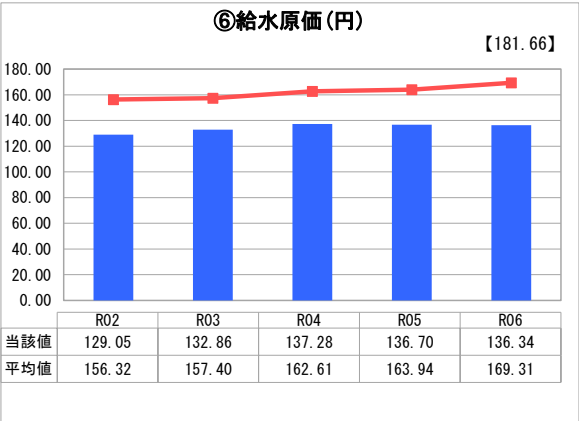
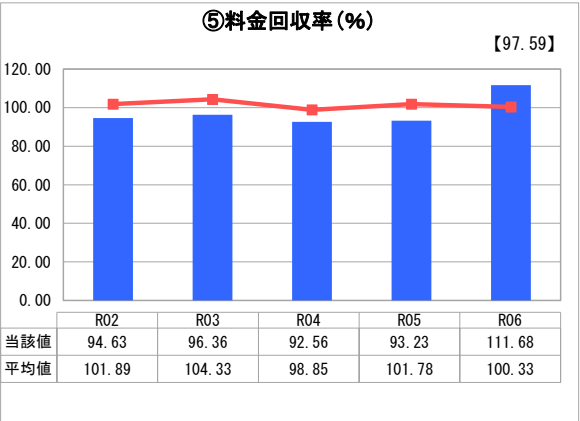
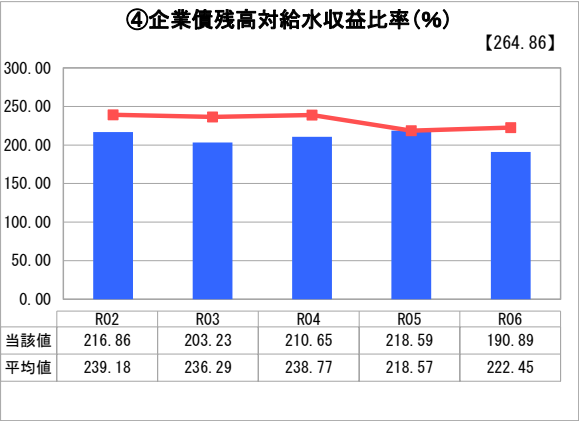
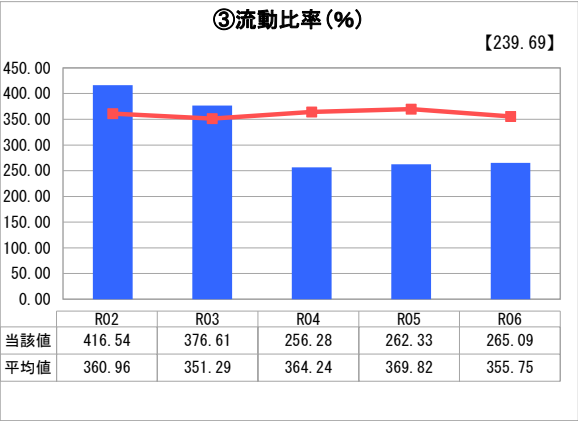
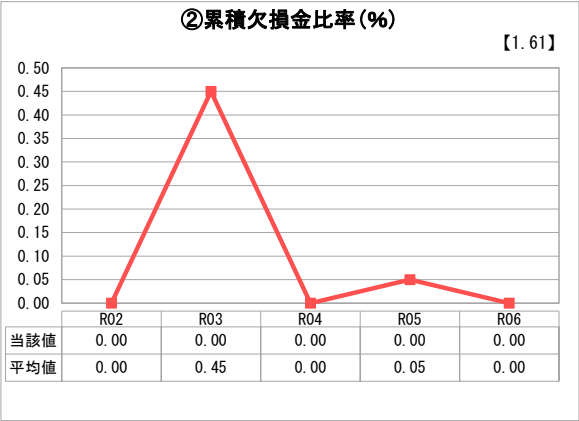
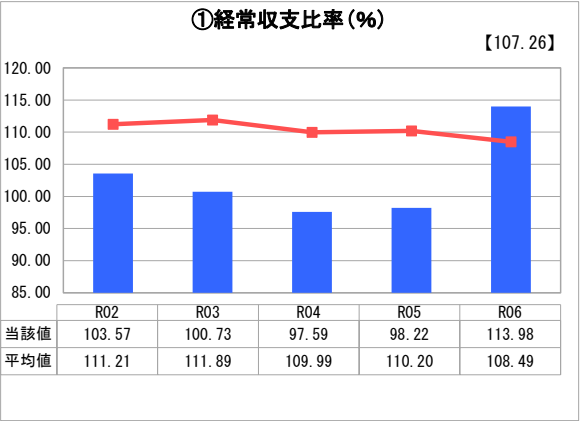
埼玉県 三郷市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A3	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)	
-	79.78	100.00	2,563	

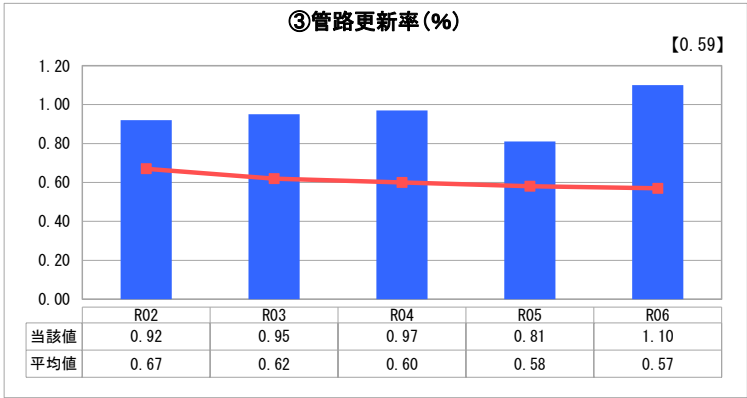
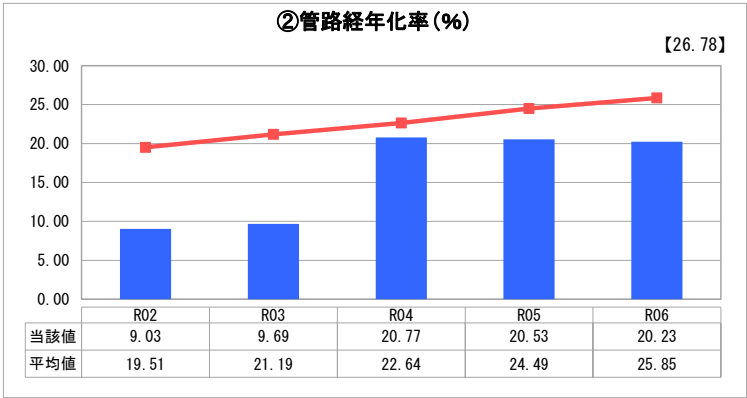
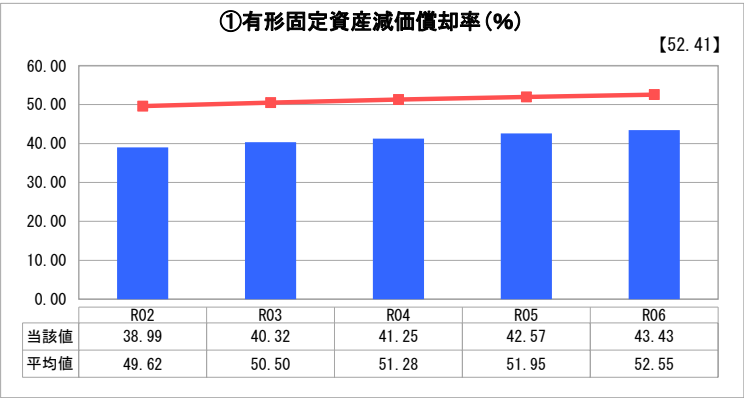
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
142,152	30.13	4,717.96
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
142,041	30.22	4,700.23

グラフ凡例
■ 当該団体値（当該値）
— 類似団体平均値（平均値）
【】 令和6年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



1. 経営の健全性・効率性について

①経常収支比率は、令和6年4月の水道料金改定により、令和6年度決算で100%を上回り、類似団体との比較でも平均値を上回っている。将来の水道施設の更新・耐震化の財源確保のため、引き続き収益性の向上に努める必要がある。

③流動比率は100%を超えており、短期的な債務に対する支払能力を有しており問題ない。

④企業債残高対給水収益比率は、水道料金改定により数値が改善し、類似団体との比較でも、平均値を下回った。今後は将来世代の負担が過大とならないよう、企業債残高を適正に管理していく必要がある。

⑤近年供給単価が給水原価を下回る状況が続いていたが、水道料金改定による増収により供給単価が上昇したため100%を上回った。供給単価が給水原価を下回る状況が続くことは、経営の悪化に繋がることになるため、今後も持続可能な事業運営に努める。

⑥給水原価は、効率的な事業運営に努めてきたことなどから類似団体平均値を下回っているが、近年、原油価格高騰等による経費増加や、施設更新に伴い減価償却費が増加傾向にあるため、増加の傾向が続いている。

⑦施設利用率は、類似団体平均値を上回っており、施設を効率的に利用している。

⑧有収率は、類似団体平均値を上回っているが、今後も引き続き老朽管の布設替えの推進や漏水調査を実施すること等により、有収率のさらなる向上に努めていく必要がある。

2. 老朽化の状況について

①有形固定資産減価償却率は、施設の更新を積極的に実施してきたことにより、類似団体平均値を下回っている。しかしながら、今後法定耐用年数を迎える資産も未だ多くあり、管路や浄水場といった施設の老朽化は進んでいる。今後も計画的かつ効率的な施設の更新を進めていく必要がある。

②管路経年化率は、早稲田地区土地区画整理事業が昭和57年度の終了より令和4年度に40年が経過し、約66kmが耐用年数を超えたため、急激に増加し高止まりしている。

③管路更新率は、類似団体平均値を上回っているが、石綿セメント管や老朽管など早急に更新が必要な管路があるため、財政状況を勘案し、計画的に更新を進めていく必要がある。

全体総括

各指標の値を類似団体と比較すると、現時点では概ね健全な運営状況を維持できていると言える。

事業を取り巻く環境としては、令和6年4月の水道料金改定の影響により、水道料金収入は増収したが、今後は人口の減少等により、使用水量の減少に伴う水道料金収入の減少が見込まれる。そのような状況の中でも、老朽化した水道施設の更新・耐震化を着実に進めていく必要があるため、将来に向け持続可能な事業運営に努めていく。